令和３年１１月１９日
（2021 年）

保護者のみなさまへ

吹田市立山田第三小学校

令和３年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１　教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全体の正答率は、全国値を下回っていた。また、無回答率は全国値を上回っていた。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと　全国値をやや下回っていた。

・「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題」の正答率は、全国値を上回っていた。

・「資料を用いた目的を理解する問題」の正答率は、全国値を下回っていた。資料で示していることを要点をまとめて捉えることに課題が見られた。

書くこと　全国値を下回っていた。

・「目的や意図に応じて，理由を明確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」の正答率は、全国値を下回っていた。自分の考えとそれを支える理由を明確になるように記述することや、自分の考えに説得力をもたせるための資料の意図を捉えて記述することに課題が見られた。また、無回答率は全国値を上回っていた。

読むこと　全国値をやや下回っていた。

・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題」の正答率は、全国値をやや上回っていた。しかし、文章全体の内容を正確に把握した上で、条件に必要な情報を見つけることに、全国と同様の課題が見られた。

・「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題」の正答率は全国値を下回っ

ていた。文章から必要な情報は見つけることはできているが、図から必要な情報を見つけたり、見つけた情報を言葉に表したりすることに課題が見られた。

言葉の特徴や使い方に関する事項　　全国値を下回っていた。

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」の正答率は、全国値とほぼ同じであった。しかし、問題によって下回っているものもあった。

・「文の中における主語と述語との関係を捉える問題」と「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題」の正答率は全国値を下回っていた。主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を捉えることに課題が見られた。

●国語科における成果と今後の改善点について

〇話すこと・聞くこと

・資料を用いた目的を理解するということに課題があった。伝えたいことを明確にして、必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように、資料をもとにした話し合い活動を、学年の実態に合わせて取り組んでいく。

〇書くこと

・目的や意図に応じて，理由を明確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するということに課題があった。読み手が納得できるように書き表すことができるようにするために、自分の考えを、経験や学習したことなどを根拠にした理由を明確にして相手に伝わるような作文指導の充実を図る。そして、文章全体の構成や展開を工夫できるようにするために、書いた作文を自分で推敲したり、相手に読んでもらって互いに評価し合うような学習活動を増やしていく。

〇読むこと

・事実と感想、意見などとの関係や文章全体の構成を捉えることができるようにするために、事実と意見にそれぞれ線を引いて印をつけ、関係性を確認できるような指導をしていく。

・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけ、その情報を言葉で表現することができるようにするために、写真やグラフ、ポスターなどの資料にふれさせ、情報を読み取る機会を増やすとともに、読み取ったことを書いたり、相手に伝える活動を増やしていく。

〇言葉の特徴や使い方に関する事項

・文の中における主語と述語との関係を捉えることと、文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題があった。学年に関わらず、短い文章でも主語と述語、修飾と被修飾の関係を見付けたりする継続的な活動を増やしていく。そして、それらを意識して短文づくりなどの活動にもつなげていくようにする。

●算数《概要》

全体の正答率は、全国値をやや上回っている。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算　　全国値を上回っている。

・「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方を記述する問題」の正答率は、とくに大きく全国を上回っていた。

図形　　全国値とほぼ同じ。

・「三角形の面積の求め方についての問題」では、全国値を下回っていた。既習の公式を習得していない、図形から面積を求めるために必要な長さの情報を選べていないという課題が見られた。

測定　全国値を上回っている。

・測定に関する3つの問題とも、全国値を上回っている。

変化と関係　全国値をやや下回っている。

・「速さを求める除法の式と商の意味を理解する問題」では、とくに正答率が低かった。1あたり量についての理解に課題が見られた。

データの活用　全国値をやや上回っている。

・「棒グラフから数量を読み取る問題」では全国値を下回り、「複数のデータから、示された特徴を持った項目とその数値を記述する問題」では全国値とほぼ同じだった。データの特徴や傾向を読み取ることに課題が見られた。

●算数科における成果と今後の改善点について

○図形

・面積を求めるために必要な長さの情報を選び、既習の公式を使って解くことができるようにするために、底辺や高さと図形の直角の部分の関係をもとに、立式に必要な長さを自分で選んで面積を求めるような様々な種類の求積問題を解く機会を作っていく。

○変化と関係

・速さを求める除法の式と商の意味についての理解に課題があった。1あたり量の理解を深めるために、立式のときに式の意味を確認したり、求めたことを説明させたりして、理解の充実や反復を繰り返していくようにする。

○データの活用

・棒グラフから数量を読み取ることに課題が見られた。文章題だけでなく、グラフや表などのデータ資料をもとに、問題に応じて必要な数値を読み取る基本的な学習を増やしていく。

●英語（質問紙のみ）《課題、指導改善のポイント》

「英語の勉強は好きですか」という設問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は全国値を下回っていた。さらに、「英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができたか」という設問でも全国値を下回っていた。児童自身が英語を使って気持ちを伝えることに課題が見られた。アクティビティで習得したセンテンスを使って、ゲームやスピーチなどで考えや気持ちを伝え合うような活動の一層の充実を図る。

2　生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【新型コロナウィルス感染症が児童に与えた影響について】

「新型コロナウィルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」という設問で、「当てはまる」と回答した児童は全国値を上回っていた。「新型コロナウィルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」という設問では、「当てはまる」と回答した児童は全国値を大きく下回っていた。自学自習について計画的に学習することに課題が見られた。家庭との連携を図る必要がある。

【学習環境・生活環境について】

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問では、「そう思う」と回答した児童が全国値を大きく上回り、「そう思わない」「思わない」と回答した児童はいなかった。いじめは絶対にいけないという考え方が身についており、人権学習・いじめ予防授業の成果が見られた。

・「毎日同じ時間に起きていますか」という設問では、全国値を大きく下回っている。規則正しい生活に課題が見られた。

・「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という設問では、「4時間以上」と回答した児童が全国値を大きく上回っている。家庭でのルール設定や管理に課題が見られた。

・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」という設問では、全国値を下回っている。自分の考えを表現したり伝えたりすることに課題が見られた。

【教科・学習について】

・「学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役立つと思いますか」という設問では、全国値を下回っている。学習の中での有用性や必要性を感じる授業作りに課題が見られた。

・国語の授業では、「よく分かる」と答えている児童は全国値とほぼ同じ割合だったが、「大切だと思うか」という設問では「どちらかというと当てはまらない」と答えた児童の割合は全国値を上回っていた。授業内容を理解できている児童は多くいるが、大切だと思っていないことに課題が見られた。

・算数の授業では、「将来役に立つと思うか」という設問では、「当てはまる」と回答した児童が全国値を上回っていた。一方で、「普段の生活で活用できないか考えるか」という設問では、全国値を下回った。学習したことを生活と結びつけて学ぶことに課題が見られた。

3　今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、「自ら課題をもって主体的・意欲的に学ぶ子の育成」という研究テーマのもとに、児童が学習内容について自ら「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」という学びに向かう姿勢を育むために、児童が関心を持てるような教材づくり、児童が疑問やつぶやきをもとに主体的に考え続けることができるような授業改善を、学校全体で取り組んでいきます。また、今後より一層変化の激しい社会を生きぬくために、自ら未来を切り拓いていく力を身につけていくことが求められます。そのような社会を見据え、児童が自ら目的や意図に応じて必要な情報を読み取り、そこから生まれる自分の考えを、周りと共有しながら深めていけるような取り組みも一層進めていきたいと思います。

生活環境や学習習慣等については、テレビゲーム等のメディア機器の影響もあってか、学校以外の場で人とコミュニケーションをとる機会が確保されていないという課題があるように思われます。学校では、新型コロナウィルス感染拡大防止に努めながらも、人と関わりながら自他の良さに気づき、互いに認め合ったり、相手の気持ちを思いやりながら人と協力できることの喜びや大切さに気づけるように今後も指導を進めていきたいと考えています。そして、読書活動や物語文への取り組み等、読書週間や読書タイムの充実を図り、読書に親しむ機会を増やしていくようにしていきたいとも考えています。

今回の学力・学習状況調査から見えた課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、新しい時代を生きるのに必要な教育をめざし、学校教育活動の充実を図っていきたいと思います。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。